

平成 20 年度用高等学校理科 地学 I 改訂版 (地 I 007)

平成 21 年度用教科書では以下について訂正致します。ご迷惑をお掛け致しますこと、謹んでお詫び申し上げますと共に、ご指導に際しまして、ご配慮戴きますようお願い申し上げます。

(株)新興出版社啓林館編集部

改善のための訂正

訂正箇所		原文	訂正文
頁	行		
101	図 33	<u>(トリアス紀)</u> ・原始的哺乳類・鳥類・被子植物の出現	<u>(ジュラ紀)</u> ・被子植物の出現 ・鳥類の出現 ・原始的哺乳類の出現
	後見返し⑤⑥		
112	24～27 行目	爬虫類の <u>恐竜</u> が出現し、さらには鳥類が爬虫類から分化した。また裸子植物が全盛期をむかえたが、中生代後期には被子植物や原始的な哺乳類も出現した。	爬虫類の <u>恐竜</u> が出現し、裸子植物が全盛期をむかえた。中生代中頃には原始的な哺乳類も出現し、鳥類が爬虫類から分化した。また被子植物も出現した。
170	図 5	<u>温度躍層</u>	<u>水温躍層</u>
251	2 行目	理科年表 2007 年度版にもとづく。	理科年表 2008 年度版にもとづく。
	土星の衛星数	<u>59</u>	<u>63</u>
257	18 行目	<u>1929</u> マントル対流説 ホームズ (イギリス)	<u>1928</u> マントル対流説 ホームズ (イギリス)